第18回

十勝川中流部川づくり報告会

令和3年10月23日

十勝川中流部市民協働会議

令和3年度の活動報告

1.　活動報告

① 相生中島上流湿地

② 帯広工業高校

③ 帯広農業高校

④ 光南水辺の楽校

⑤ ウツベツ川

⑥ その他活動

2.　十勝川かわまちづくり 活動報告

①相生中島上流湿地　活動3回

No	場所	日付	内容
1	相生中島上流湿地	R3.4.22～	自動撮影カメラの設置
2		R3.5.20-22	再樹林化防止のための土砂掘削他
3		R3.6.19	水生動物調査

相生中島上流湿地へ自動撮影カメラの設置

撮影期間	令和3年4月22日～10月11日
場　所	十勝川相生中島上流湿地
目　的	昨年度から実施しているSDGsへの貢献に向けた活動として、採集が可能な生物と比べ、確認が困難である鳥類の生息状況確認のため、自動撮影カメラを4月22日に設置し、水鳥類のモニタリングを行っています。 設置から10月11日までに、鳥類では新確認種2種を含めた6科9種、哺乳類では新確認種1種を含めた2科3種が確認されています。

自動撮影カメラによる生物確認状況（鳥類：6科9種, 哺乳類2科3種）

赤字：新確認種

分類	科名	種名	撮影箇所				
			川側下流	川側中間	築堤側上流	築堤側中間	築堤側下流
鳥類	カモ	マガモ	○	○	○		○
		カルガモ	○				○
		キンクロハジロ			○		
	カイツブリ	カイツブリ	○				
	サギ	アオサギ	○		○		
		ダイサギ	○				
	ツル	タンチョウ		○			
	クイナ	バン	○				
	カワセミ	カワセミ			○		
哺乳類	シカ	エゾシカ	○	○	○	○	
	イヌ	キタキツネ				○	
		エゾタヌキ				○	

鳥類確認種数

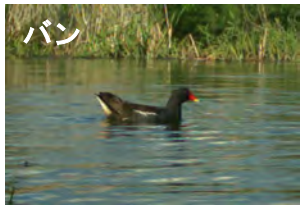
R2年確認種数 43種 → R3年確認種数 45種

哺乳類確認種数

H30年確認種数 10種 → R3年確認種数 11種

鳥類 新確認種

確認日：5月10, 11日



確認日： 6月5, 6, 7, 9日
8月19, 28, 29日
10月2日

哺乳類 新確認種

確認日：8月21日

十勝川相生中島上流湿地における再樹林化防止のための土砂掘削他

日　時	令和3年5月20日(木)～ 5月22日(土)
場　所	十勝川相生中島上流湿地
目　的	相生中島上流湿地は、十勝川の流下断面確保と再樹林化防止を目的に、平成24～25年度に掘削されたことにより形成されました。 平成28年8月の台風によって湿地の大半が土砂に覆われ、水域も半分程度に減少しました。この活動は、半減した水域環境拡大と湿地環境維持を目的に行われ、今回で5回目となります。
内　容	1.　ガマ生育面積拡大のための水際掘削 • 湿地下流部のガマ生育地付近の水際を水深が30～50cm程度になるよう掘削（約600㎡） 2.　ヤナギ実生及び幼木の覆土処理 • ガマ生育面積拡大の作業により発生した土砂によるヤナギ実生への覆土（約600㎡） • 中州に生育するヤナギ幼木への覆土（約2,700㎡） 3.　外周路の整備 • 増水時に水没してしまう箇所への覆土

作業前
←十勝川

作業後
ヤナギ実生への覆土による処理（約 600 ㎡）
ガマ生育面積拡大に向けた掘削（約 600 ㎡）
ヤナギ幼木への覆土による処理（約 2, 700 ㎡）
←十勝川

作業状況(5月20日～22日の作業)

ガマ生育面積拡大のための掘削

ヤナギ実生への覆土処理

ヤナギ幼木への覆土処理

ガマ生育範囲拡大のための掘削後

ヤナギ実生への覆土処理後

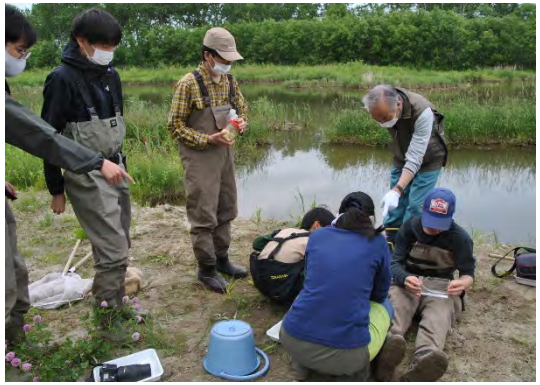
ヤナギ幼木への覆土処理

十勝川相生中島上流湿地における水生動物調査

日　時	令和3年6月19日（土）
場　所	十勝川相生中島上流湿地
目　的	昨年から実施しているSDGsへの貢献に向けた活動の一つである「湿地環境の創出により増加した生物種数を維持する」という目標に対して、相生中島上流湿地に生息する水生動物の採取による調査を行いました。 結果としては、8科8種の底生動物を確認し、キハダヒラタカゲロウ属の一種を新たに確認しました。またトンボを4科10種、魚類を3科5種確認しています。 また、昨年からヤナギ再樹林化抑制に向けたクサヨシ播種試験を行っている箇所について、試験区内の除草作業も行いました。
内　容	1.　湿地内に生息している水生動物調査 2.　クサヨシ播種試験区内の除草

調査時の湿地の様子

調査の様子



同定の様子

水生動物調査結果

底生動物

科名	種名	備考
ヒラタカゲロウ	キハダヒラタカゲロウ属の一種	新確認種
ミズムシ	ミズムシ	
コオイムシ	オオコオイムシ	北海道RL【希少種(R)】
タイコウチ	ミズカマキリ	
マツモムシ	マツモムシ	
ゲンゴロウ	ゲンゴロウモドキ	
ミズスマシ	オオミズスマシ	環境省RL【準絶滅危惧(NT)】
モノアラガイ	モノアラガイ	環境省RL【準絶滅危惧(NT)】

水生生物全個体

トンボ

科名	種名
アオイトトンボ	オツネントンボ
イトトンボ	キタイトトンボ（ヤゴ）
	エゾイトトンボ
	ルリイトトンボ（ヤゴ）
ヤンマ	オオルリボシヤンマ（ヤゴ）
トンボ	シオカラトンボ
	キトンボ（ヤゴ）
	アユタテアカネ（ヤゴ）
	アキアカネ（ヤゴ）
	ノシメトンボ（ヤゴ）

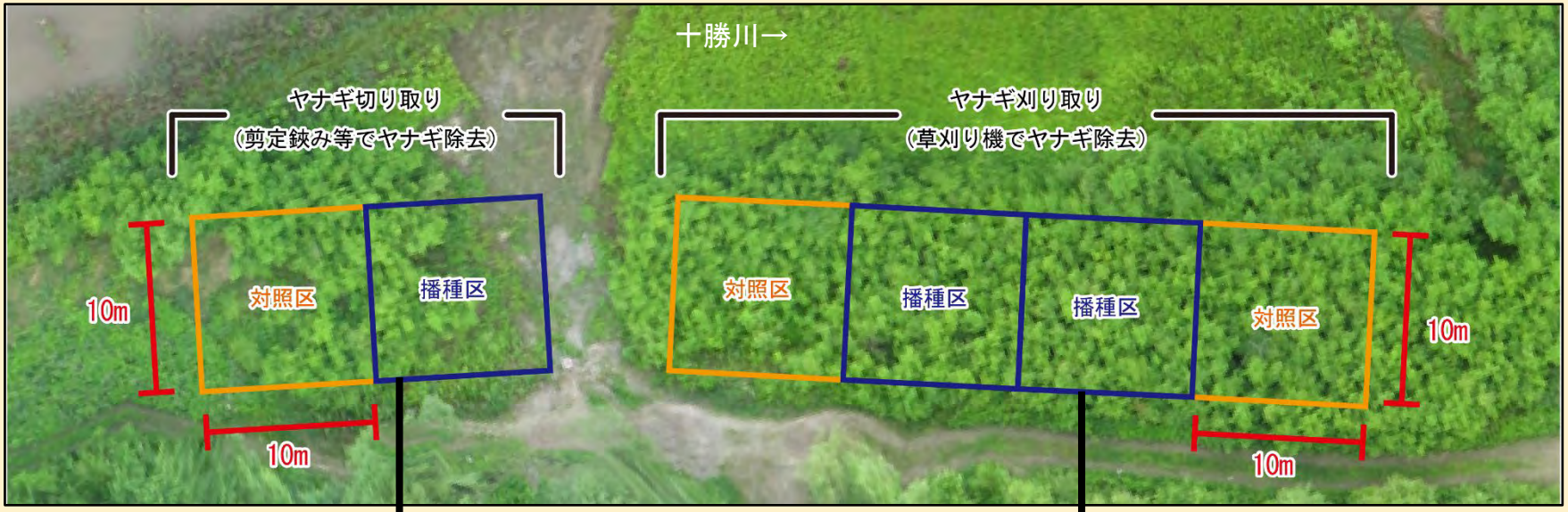
新確認種　キハダヒラタカゲロウ属の一種

魚類

科名	種名	備考
ドジョウ	フクドジョウ	
	エゾホトケドジョウ	環境省RL【絶滅危惧IB類(EN)】 北海道RL【絶滅危惧IB類(En)】
トゲウオ	イトヨ属の一種	
	トミヨ属の一種	
ハゼ	ジュズカケハゼ	環境省RL【準絶滅危惧(NT)】

魚類水生生物全個体

クサヨシ播種試験区の草刈り前後



←草刈り前

草刈り後→

←草刈り前

草刈り後→

②帯広工業高校　活動6回

No	場所	日付	学年	内容
1	帯広工業高校	R3.5.31	1年生	札内川における環境学習
2	中札内橋	R3.6.7		中札内橋上流 横断測量（ダム放流前）
3		R3.10.18		中札内橋上流 横断測量（ダム放流後）
4	鈴蘭大橋	R3.6.3	2年生	クサヨシ播種
5		R3.10.21		クサヨシ生育モニタリング
6	帯広工業高校	R3.6.22	3年生	防災授業

帯広工業高校1年生を対象にした札内川における環境学習

日　時	令和3年5月31日（月）8：55～15：20
場　所	座　　学：帯広工業高校　2Fパソコン室 現地見学：中札内橋上流、札内川ダム
内　容	札内川懇談会の活動としての平成27年度から実施・継続してきた活動です。昨年度までは懇談会の活動や札内川の自然再生モニタリングの目的についての座学のみを行っていたが、今年度は座学に加えて、測量箇所及び札内川ダムの見学も行った。
参加者	帯広工業高校1年生　40名 帯広開発建設部　4名 十勝川中流部市民協働会議　6名

事務局和田より
十勝川中流部市民協働会議について説明

授業風景

授業風景

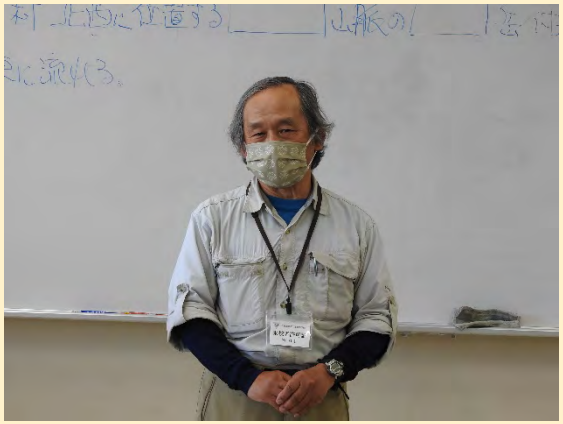
実施状況：座学

午前

○札内川懇談会の活動について
（帯広開発建設部　治水課：川井上席）

○当日の行程について
（事務局：前田）

午後



○札内川の自然史について
（事務局：鏡）

○中札内橋の測量実習に向けて
（事務局：橋本）

実施状況：現地見学（午前）

中札内橋上流
測量箇所

○札内川懇談会の活動について
（事務局：橋本）

○当日の行程について
（事務局：橋本）

札内川ダム

○札内川ダムについて
（帯広開発建設部　札内川ダム管理支所：吉田支所長）

○札内川ダムからの放流状況

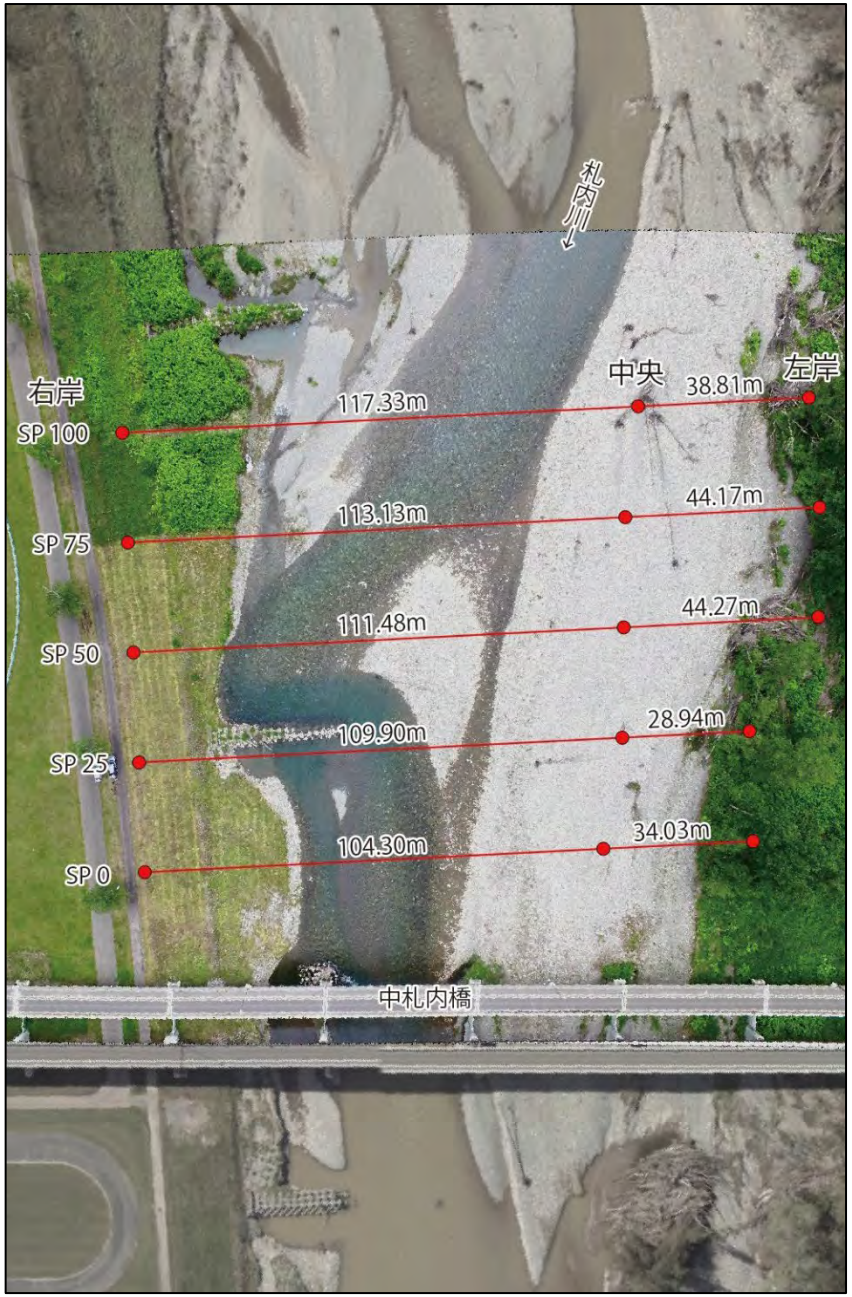
帯広工業高校1年生 札内川懇談会支援として中札内橋上流の横断測量

日　時	令和3年6月7日,10月18日　8：55～15：20
場　所	札内川（中札内橋上流部）
内　容	この活動は札内川懇談会が平成27年度から行っているものです。札内川の礫河原再生を目的に行っている札内川ダムによる放流に伴い、放流前と放流後の河原の地形変化を知るために毎年、帯広工業高校1年生と横断測量を実施しています。 今年度は6月7日（ダム放流前）、10月18日（ダム放流後）に実施しました。 ダム放流前後に実施した横断測量の結果とりまとめの座学を11月8日（月）の午後から帯広工業高校で実施する予定です。
参加者	帯広工業高校1年生 40名：教員 5名 十勝川中流部市民協働会議 8名

事務局橋本より測量の説明

事務局大澤より3班への説明

生徒からの挨拶



横断測量箇所

1班 作業風景(6/7)

2班 作業風景(6/7)

3班 作業風景(6/7)

4班 作業風景(10/18)

5班 作業風景(10/18)

5班 作業風景(10/18)

帯広工業高校2年生 クサヨシ播種

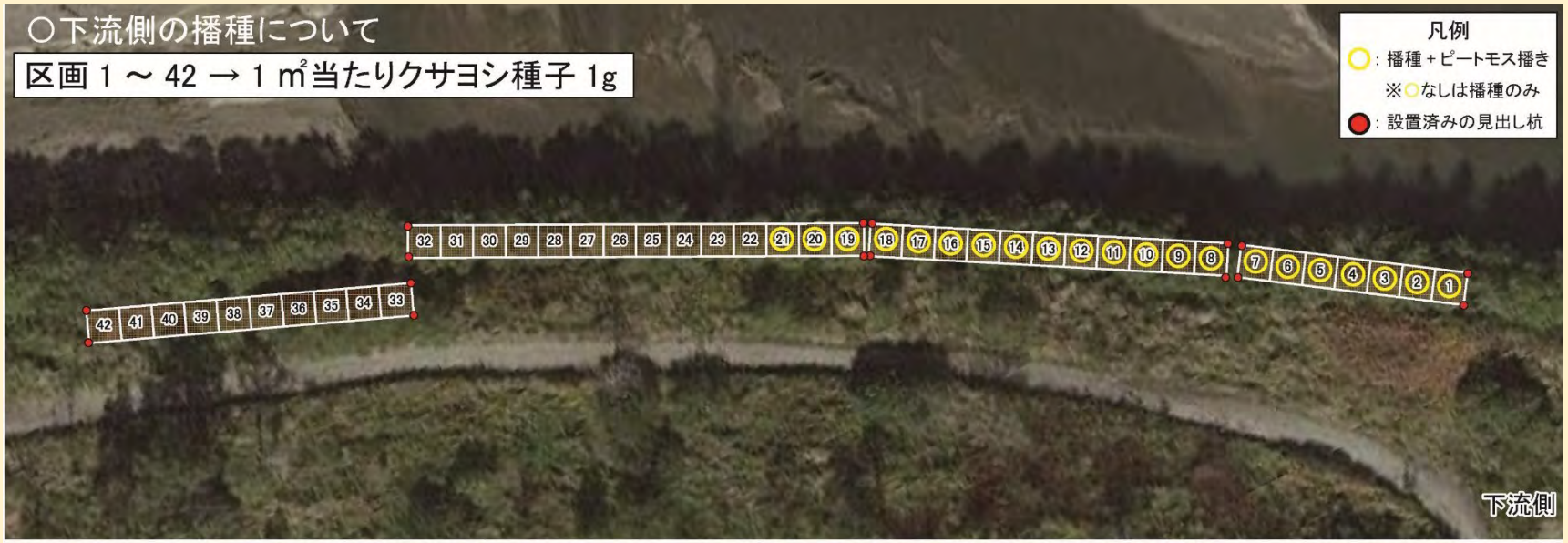
日　時	令和3年6月3日（木）8：55～15：20
場　所	鈴蘭大橋上下流右岸
内　容	再樹林化防止や草地形成に繋げることを目的に令和2年度に伐開工事を行った鈴蘭大橋上下流右岸を対象に、帯広工業高校の生徒と区画割及びクサヨシ播種を行いました。 【概要】 ・播種面積　　：1,450㎡ ・1区画　　：5×5㎡=25㎡→58区画 ・クサヨシ種子：2.95kg
参加者	帯広工業高校 40名 教員 2名 帯広開発建設部 帯広河川事務所 6名 十勝川中流部市民協働会議　10名

説明の様子

事務局和田より播種について説明

事務局前田より作業内容の説明

播種図面


○下流側の播種について
区画 1 ～ 42 → 1 ㎡当たりクサヨシ種子 1g
凡例
○：播種＋ピートモス播き
※○なしは播種のみ
●：設置済みの見出し杭
32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8
7 6 5 4 3 2 1
42 41 40 39 38 37 36 35 34 33
下流側

上流側
十勝川→
58 57 56 55 54 53 52 51
50 49 48 47 46 45 44 43
○上流側の播種について
1 ㎡当たり 10g
1 ㎡当たり 5g
1 ㎡当たり 2.5g
1 ㎡当たり 1.5g
58 57 56 55 54 53 52 51
50 49 48 47 46 45 44 43
1 区画 ： 5×5m=25 ㎡
播種面積 ： 1,450 ㎡
播種実施日 ： 令和 3 年 6 月 3 日

現地作業状況

午前

杭に区画番号を書く様子

区画割の様子

レーキによる表土掻きの様子

午後

ピートモスと種子の混交の様子

播種の様子

播種後に踏みしめる様子

帯広工業高校2年生 クサヨシ生育モニタリング

日　時	令和3年10月21日（木）8：55～15：20
場　所	鈴蘭大橋上下流右岸
内　容	再樹林化防止や草地形成を目的として、令和2年度に伐開工事を行った鈴蘭大橋上下流右岸を対象に、今年6月クサヨシ播種を帯広工業高校2年生と行いました。 今回は、実際にクサヨシ播種作業を行った2年生とクサヨシの生育状況を把握するため、モニタリング調査を実施しました。 調査終了後に帯広河川事務所川岸課長の方から、十勝大橋の水位と播種箇所の水位相関について説明していただきました。 【6月の播種概要】 ・播種面積：1,450㎡　・1区画：5×5㎡=25㎡→58区画　・クサヨシ種子：2.95kg
参加者	帯広工業高校 40名 教員 2名 帯広開発建設部 帯広河川事務所 7名 十勝川中流部市民協働会議　10名

説明の様子

事務局前田より調査方法について説明

事務局室瀬より植物について説明

現地作業状況

5×5mの植被率を計測

1×1m方形区調査

帯広河川事務所 川岸課長から
水位相関について説明

調査結果

クサヨシ生育モニタリング結果

播種箇所：鈴蘭大橋	播種内容	播種量 (g/㎡)	クサヨシ発芽期待本数に対する発芽率（1×1㎡）	平均植被率 (5×5m)
下流側	播種＋ピートモス	1.0	3.6%	68%
	播種のみ	1.0	3.7%	79%
上流側	播種＋ピートモス	1.5	1.4%	70%
		2.5	0.9%	80%
		5.0	0.8%	80%
		10.0	0.3%	70%
	播種のみ	1.5	1.0%	60%
		2.5	1.8%	80%
		5.0	0.7%	80%
		10.0	0.4%	70%

帯広工業高校3年生 防災授業

日　時	令和3年6月22日（火）12：30～15：20
場　所	帯広工業高校　2Fパソコン室
内　容	平成28年から環境土木科3年生を対象に、防災をテーマにした座学を行っています。北海道開発局、帯広建設管理部、帯広市役所から過去の災害、災害情報の入手方法等について説明していただきました。
参加者	帯広工業高校　40名 帯広開発建設部 治水課　1名 帯広建設管理部 治水課　1名 帯広市役所 総務部 危機対策室 危機対策課　1名 十勝川中流部市民協働会議　3名

事務局和田より授業について説明

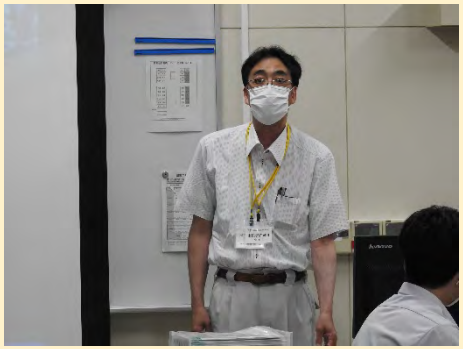
授業風景

授業風景

講義内容について

講義1：水の災害について学ぶ（帯広開発建設部 治水課：橋本流域計画官）

・北海道開発局の仕事、過去の洪水、洪水と氾濫の種類について説明していただきました。



講義2：土砂災害について（帯広建設管理部 治水課：武田主査）

・平成28年の台風による被害状況や復旧状況について説明をしていただきました。

講義3：帯広の防災体制について
（帯広市役所 総務部 危機対策室 危機対策課：上川氏）

・平成28年の台風による被害状況、「自助・共助・公助」の説明や帯広市の備えにについて説明をしていただきました。

③帯広農業高校　活動1回

No	場所	日付	内容
1	相生中島上流湿地	R3.7.28	夏期魚類調査

帯広農業高校との魚類調査等活動支援（夏期）

日　時	令和3年7月28日（水）
場　所	十勝川相生中島上流湿地
目　的	湿地環境の現状把握のため、平成26年より継続して行っています。
内　容	魚類捕獲調査 • 区画（5m×10m）を中央部・岸際部・掘削部に1箇所ずつ設置し調査を実施 • 捕獲終了後種別に個体数、体長・重量の計測
参加者	帯広農業高校　十勝川中流部川づくり班：45名 帯広開発建設部 帯広河川事務所：5名 アイヌ民族団体：2名 受注業者 アークコーポレーション㈱：10名 十勝川中流部市民協働会議：2名

帯広河川事務所 馬渕氏挨拶

農業高校 高山先生挨拶

記念撮影

調査箇所図面

実施状況

魚類捕獲状況（中央部）

魚類捕獲状況（岸際部）

魚類捕獲状況（掘削部）

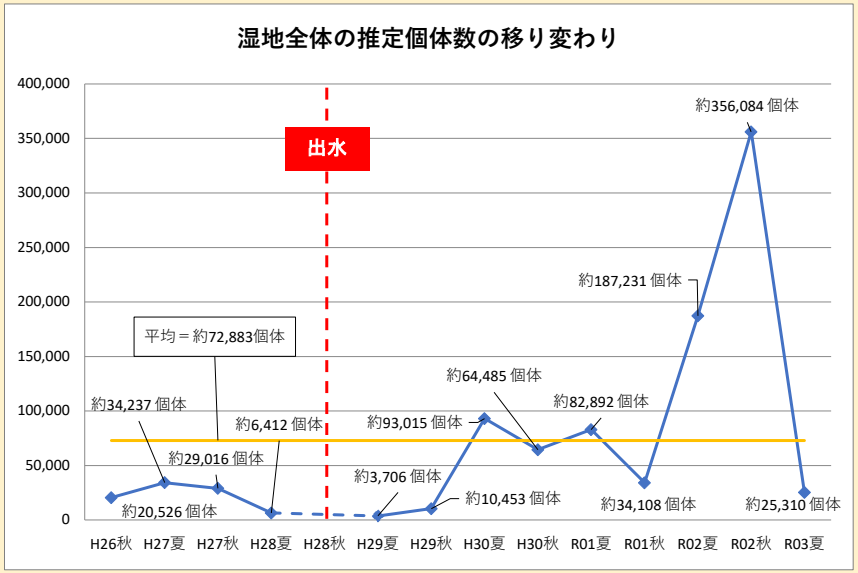
魚類捕獲状況（中央部）

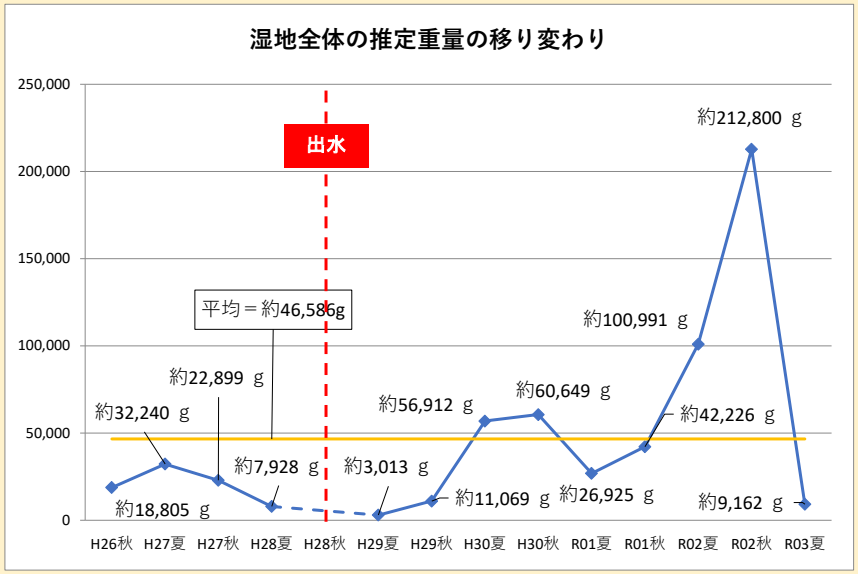
魚類捕獲状況（岸際部）

魚類捕獲状況（掘削部）

調査結果（採捕結果と全量推定値）

区分	種名	中央部		岸際部		掘削部	
		個体数	重量（ｇ）	個体数	重量（ｇ）	個体数	重量（ｇ）
魚類	ヤツメウナギ類	0	0	0	0	0	0
	ウグイ類	0	0	0	0	0	0
	フクドジョウ	0	0	0	0	0	0
	エゾホトケドジョウ	11	16	10	3.5	1	0.4
	イトヨ	66	22.9	3	3.1	1	1.8
	トミヨ属淡水型	44	15.6	7	2.5	12	3.2
	ジュズカケハゼ	117	29	0	0	41	11.1
調査面積（m2）		50		50		50	





④光南水辺の楽校　活動2回

No	場所	日付	内容
1	光南水辺の楽校	R3.6.10	実のなる木付近の除草作業
2		R3.10.7	川で遊ぼう 札内川・光南地区水辺の楽校

光南地区 水辺の楽校「実のなる木」周辺の除草

日　時	令和3年6月10日（木）9：00～12：00
内　容	光南地区 水辺の楽校「実のなる木」の植樹は、平成29年度～令和2年度に植樹会を行い、その後あじさい保育園の園児や地域の方々の散策の場として利用していただいています。 この活動は、水辺の楽校が健全に活用されることを願い、散策ルートと植樹した木々の周りの除草を行ったものです。

川で遊ぼう　札内川・光南地区水辺の楽校

日　時	令和3年10月7日（木）9：00～12：00
場　所	光南水辺の楽校（札内川）
参加者	・あじさい保育園：園児50名、大人6名 ・運営人員（計25名）　帯広河川事務所5名 十勝川河川協力団体連合10名 札内川懇談会1名
イベント内容	水生動物等の観察会
主催	あじさい保育園、NPO法人十勝多自然ネット、十勝川中流部市民協働会議、 帯広開発建設部 帯広河川事務所
協力	札内川懇談会

帯広河川事務所 川岸計画課長より
開会の挨拶

水生動物を捕獲している様子

捕獲の仕方について見学している様子

水生動物等の観察会

札内川で捕獲していた水生動物を水槽に入れて準備しておき、札内川懇談会メンバーの石垣氏から参加者に水生動物について説明をしていただきました。

札内川懇談会メンバーの石垣氏より説明

観察の様子

観察の様子

観察の様子

⑤ウツベツ川　活動1回

No	場所	日付	内容
1	ウツベツ川 （親水護岸周辺）	R3.6.26	野草移植及び水質調査

ウツベツ川　野草移植及び水質調査

日　時	令和3年6月26日（土）
場　所	ウツベツ川（厚生病院前の親水護岸周辺）
目　的	平成30年度に改修工事が行われ、令和元年度にステップ整備、令和2年度にフェンス沿いへの実のなる木の植樹等を行いました。令和3年度は、植樹樹木周囲に在来種野草であるエゾスカシユリ、アヤメ等を移植しました。併せて、全国一斉水質調査にも参加し、ウツベツ川の水質をパックテストを使用し調べました。
内　容	1. 植樹樹木周囲に野草移植 2. 全国一斉水質調査への参加
参加者	十勝川中流部市民協働会議：6名

1. 植樹樹木周囲に野草移植

野草移植の様子

エゾスカシユリ

アヤメ

ミヤマキンポウゲ

クサレダマ

2. 全国一斉水質調査への参加

水質試験結果（実施日：6月26日）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	試験結果：親水護岸前	
		化学的酸素要求量（COD）	R2	R3
AA	・水道1級　・水産1級 ・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	1mg/ℓ以下	○ （1mg/ℓ）	○ （1mg/ℓ）
A	・水道2、3級　・水産2級 ・水浴及びB以下の欄に掲げるもの	3mg/ℓ以下		
B	・水産3級　・工業用水1級 ・農業用水及びCの欄に掲げるもの	5mg/ℓ以下		
C	・工業用水2級　・環境保全	8mg/ℓ以下		

結果は、1ｍｇ/ℓとなり、類型ＡＡとなった。
※ 上記の表は湖沼の環境基準の数値によるもの

採水箇所上流側の様子

採水箇所の様子

パックテストの様子

⑥その他　活動1回

No	場所	日付	内容
1	岐阜県 長良川国際会議場	R3.10.2-3	第13回 いい川・いい川づくりワークショップ

第13回 いい川・いい川づくりワークショップ in 中部

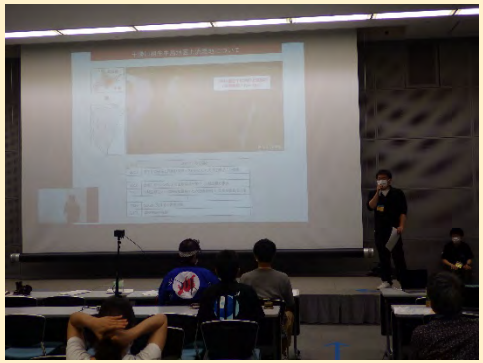
日　時	令和3年10月2日（土）13：00～20：00、　10月3日（日）8：30～15：00
場　所	岐阜県 長良川国際会議場
内　容	7月7日の川の日の記念行事として始まり、今回で通算23回目となります。全国のいい川づくりを行っている個人や団体が日頃の活動を発表して、“より良い いい川づくり”について全国規模で共有できる場となります。 昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催は2021年に延期となりました。延期となった代わりに、オンライン企画として「ゆく川・くる川川談義」が開催され、当会も参加しました。 今年は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った上で予定通り開催され、十勝からは2団体が参加しました。
10月2日	開会式 → 全体発表（現地・オンライン） → グループワーク → グループワークの全体共有
10月3日	全国の川からの中継 → パネルトーク木曽三川 → 川開きだヨ！全員集合 → 閉会式

開会式の様子

発表前の全体集会

全体発表・グループワーク

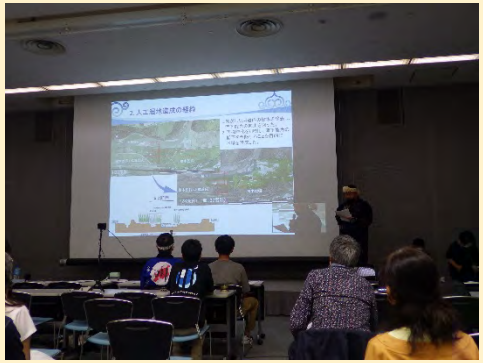
十勝川中流部
市民協働会議
大澤 亘紘氏

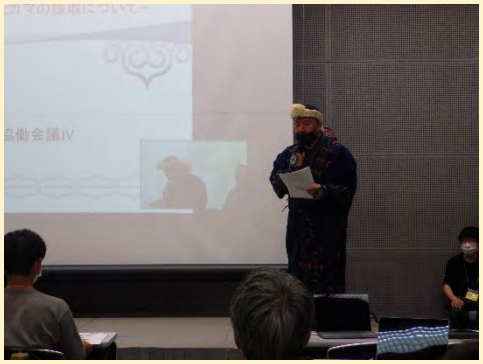


全体発表の様子

グループワークの様子

本別アイヌ協会
小川 哲也氏
協力：十勝川中流部
市民協働会議





全体発表の様子

グループワークの様子

いい川づくり事務局
として参加
和田 哲也氏

グループワーク進行の様子

グループワーク全体共有の様子